



アルインコ株式会社  
決算説明資料

2022年10月

ALINCO Now

証券コード : 5933  
<https://www.alinco.co.jp/>

<b>2023年3月期第2四半期業績について</b> .....	2
<b>2023年3月期通期業績予想について</b> .....	19
<b>株主還元</b> .....	24
<b>会社概要</b> .....	28

# 2023年3月期第2四半期業績 について

## 1. 2023年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値の修正（2022年3月21日～2022年9月20日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想（A）	百万円 28,650	百万円 200	百万円 280	百万円 160	円 銭 8.22
今回修正予想（B）	29,900	950	1,900	1,260	64.77
増減額（B－A）	1,250	750	1,620	1,100	
増減率（％）	4.4	375.0	578.6	687.5	
（ご参考）前期第2四半期実績 （2022年3月期第2四半期）	26,714	922	1,164	747	38.66

## 2. 修正の理由

新型足場「アルバトロス」を中心として仮設機材の販売やレンタルが引き続き好調に推移した結果、売上高が前年同期、前回予想ともに上回る見込みであります。

利益面においても、コア事業の好調な業績に加えて、円安が急速に進展したことによって、為替予約によるヘッジ効果や外貨建資産などの評価による為替差益が生じたことから、2022年5月2日に公表しました2023年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想数値が、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益において大幅に上回る見込みとなりました。

なお、原材料価格の上昇や円安による海外からの仕入コスト上昇などの懸念は依然として継続しております。通期の業績予想につきましては現在精査中であり、修正を行う場合には速やかにお知らせすることといたします。

配当予想につきましては、第2四半期末並びに期末ともに、前回予想（第2四半期末：1株当たり20円、期末：1株当たり20円）から変更はございません。

# 2023年3月期第2四半期 連結業績



- ✓ 売上高は、コア事業での新型足場「アルバトロス」の採用ユーザー拡大が、増産とレンタル資産の稼働率上昇をともなう好循環を生み出し業績を牽引。前期に実施したM&Aによる子会社の売上高も期初から寄与して、前年同期比11.7%増となった
- ✓ 利益面では、販売価格の値上げ効果についてはセグメントごとに差があるものの、営業利益は急速な円安の進行により前年同期並み。経常利益は、為替予約によるヘッジ効果や外貨建資産の評価益を営業外収益に計上したことによって、前年同期比74.1%増となった

(単位：百万円)

	2021.3月期 2Q	2022.3月期 2Q	2023.3月期 2Q			
	実績 (売上比)	実績 (売上比)	当初計画 (売上比)	実績 (売上比)	当初計画比 増減額 (増減率)	前年同期比 増減額 (増減率)
売上高	25,202 (100.0%)	26,714 (100.0%)	<b>28,650</b> <b>(100.0%)</b>	<b>29,852</b> <b>(100.0%)</b>	+1,202 (+4.2%)	+3,138 (+11.7%)
売上総利益	7,294 (28.9%)	7,083 (26.5%)	<b>6,730</b> <b>(23.5%)</b>	<b>7,313</b> <b>(24.5%)</b>	+583 (+8.7%)	+229 (+14.8%)
販管費	6,319 (25.1%)	6,161 (23.1%)	<b>6,530</b> <b>(22.8%)</b>	<b>6,311</b> <b>(21.1%)</b>	△218 (△3.4%)	+149 (+2.4%)
営業利益	975 (3.9%)	922 (3.5%)	<b>200</b> <b>(0.7%)</b>	<b>1,002</b> <b>(3.4%)</b>	+802 (+401.1%)	+80 (+8.7%)
経常利益	1,124 (4.5%)	1,164 (4.4%)	<b>280</b> <b>(1.0%)</b>	<b>2,026</b> <b>(6.8%)</b>	+1,746 (+623.7%)	+862 (+74.1%)
親会社に帰属する四半期純利益	602 (2.4%)	747 (2.8%)	<b>160</b> <b>(0.6%)</b>	<b>1,222</b> <b>(4.1%)</b>	+1,062 (+663.9%)	+474 (+63.4%)
レンタル資産投資額	786	1,614	---	<b>872</b>	---	△742
一般設備投資額	1,043	599	---	<b>1,009</b>	---	+410
レンタル資産償却額	915	911	---	<b>876</b>	---	△35
その他減価償却額	445	466	---	<b>504</b>	---	+37

(注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

# 2023年3月期第2四半期 セグメント情報



- ✓ 住宅機器セグメントは、急速な円安の進行に販売価格の値上げが追い付かず、売上高の減少もあり、セグメント利益は前年同期実績を下回った
- ✓ その他のセグメントは、売上高、セグメント利益とも当初計画及び前年同期実績を上回った

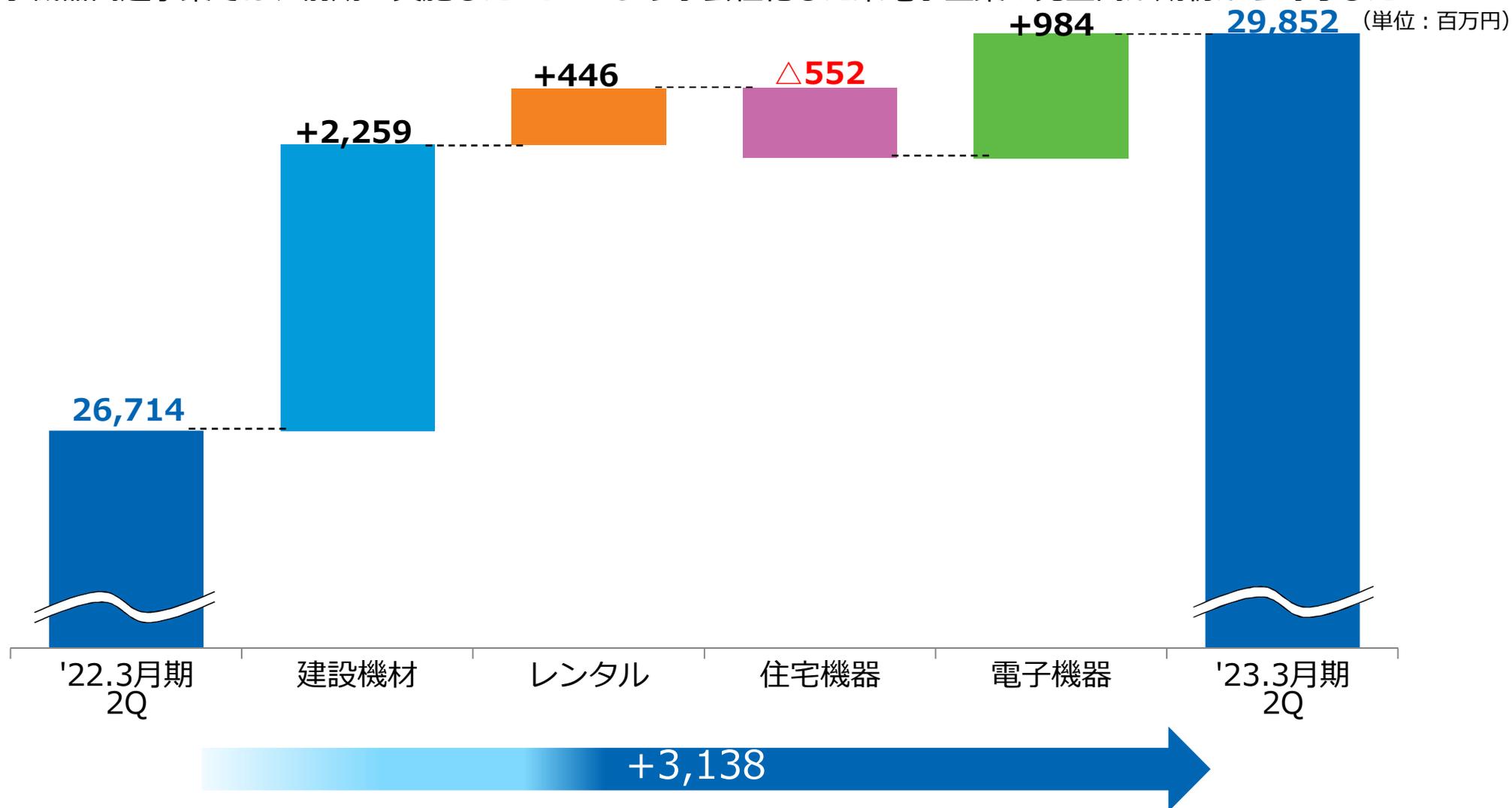
(単位：百万円)

上段：売上高 下段：セグメント利益	2021.3月期 2Q	2022.3月期 2Q	2023.3月期 2Q			
	実績	実績	当初計画	実績	当初計画比 増減率	前年同期比 増減率
建設機材関連	7,668 346	9,809 863	10,920 317	<b>12,068</b> <b>1,334</b>	+10.5% +320.9%	+23.0% +54.5%
レンタル関連	7,408 111	7,781 150	7,720 △36	<b>8,228</b> <b>212</b>	+6.6% -	+5.7% +40.8%
住宅機器関連	8,446 560	7,382 △25	7,360 △162	<b>6,829</b> <b>△156</b>	△11.5% -	△7.5% -
電子機器関連	1,679 △13	1,740 47	2,650 82	<b>2,725</b> <b>156</b>	+2.9% +90.8%	+56.6% +230.6%
調整	- 119	- 127	- 80	- <b>479</b>	- -	- -
全社合計	25,202 1,124	26,714 1,164	28,650 280	<b>29,852</b> <b>2,026</b>	+4.2% +623.7%	+11.7% +74.1%

(注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

# 2023年3月期第2四半期 売上高セグメント別増減要因

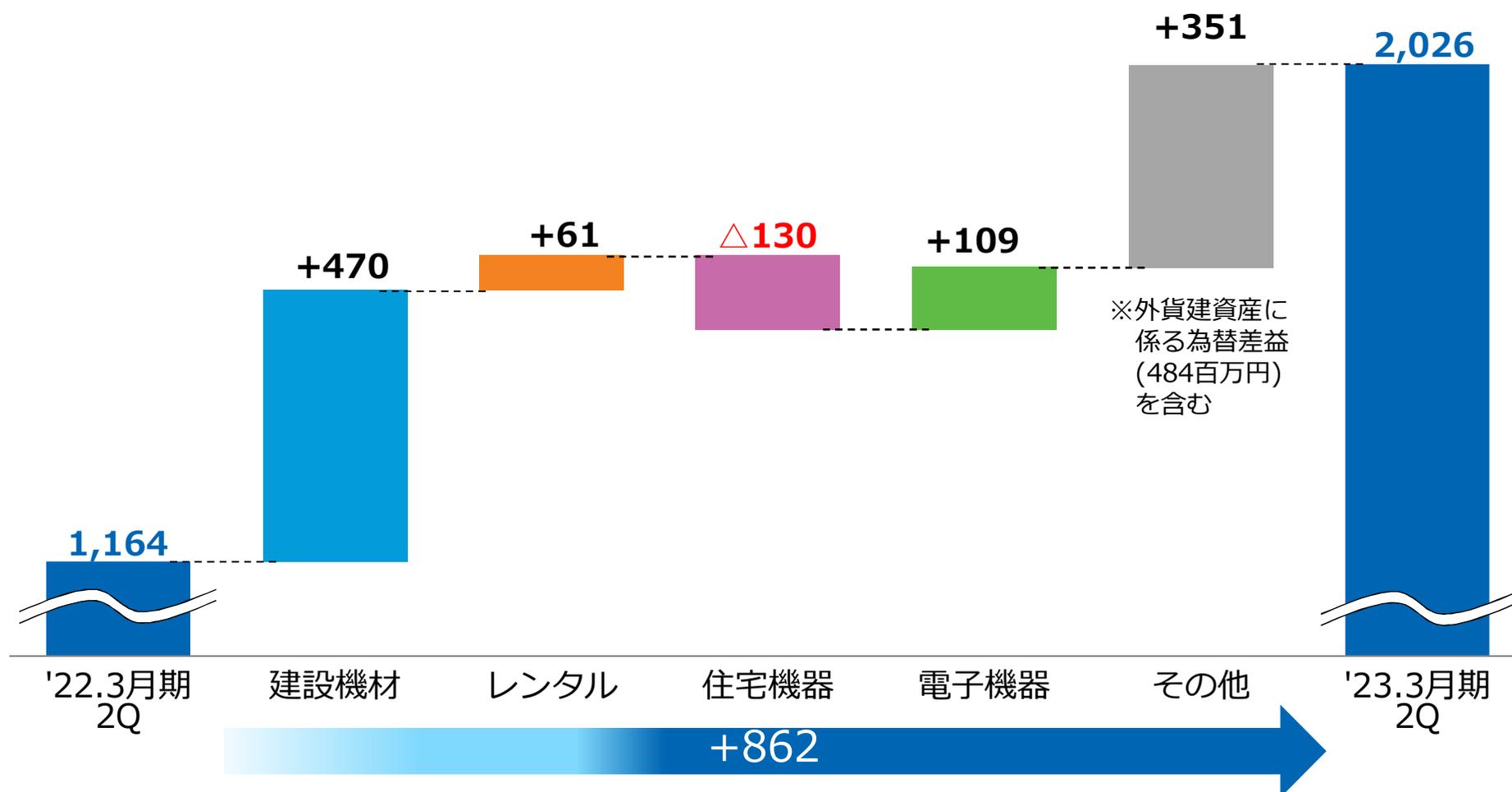
- ✓ 新型足場「アルバトロス」の販売は前年同期比79%増となり、コア事業の売上高増加を牽引
- ✓ 一方、フィットネス機器の販売は前年同期比27%減となり、住宅機器セグメントの売上高減少の主な要因となった
- ✓ 電子機器関連事業では、前期に実施したM&Aにより子会社化した東電子工業の売上高が期初から寄与した



# 2023年3月期第2四半期 セグメント別経常利益増減要因 **ALINCO**

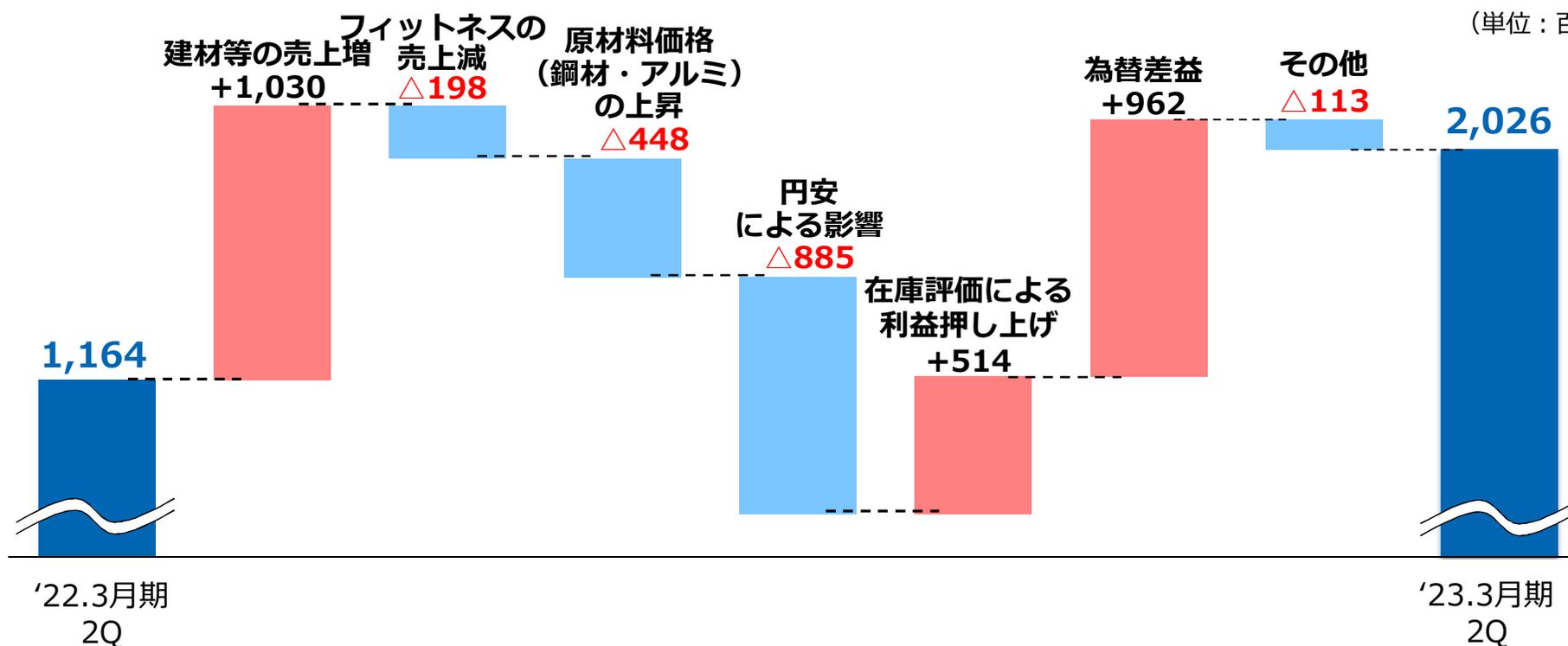
- ✓ 原材料価格の上昇や円安の進行による仕入コスト上昇に対し、販売価格の値上げを実施したが、利益面への効果はセグメントごとに差が生じた
- ✓ 建設機材セグメントにおける増収が利益面への寄与が大きく、全体の利益増を牽引。巣ごもり需要の反動が生じているフィットネスの減収は住宅機器セグメントの利益減の要因となった
- ✓ 外貨建資産の評価による為替差益を営業外収益に計上したことも増益に大きく寄与

(単位：百万円)



# 2023年3月期第2四半期 要因別経常利益増減

(単位：百万円)

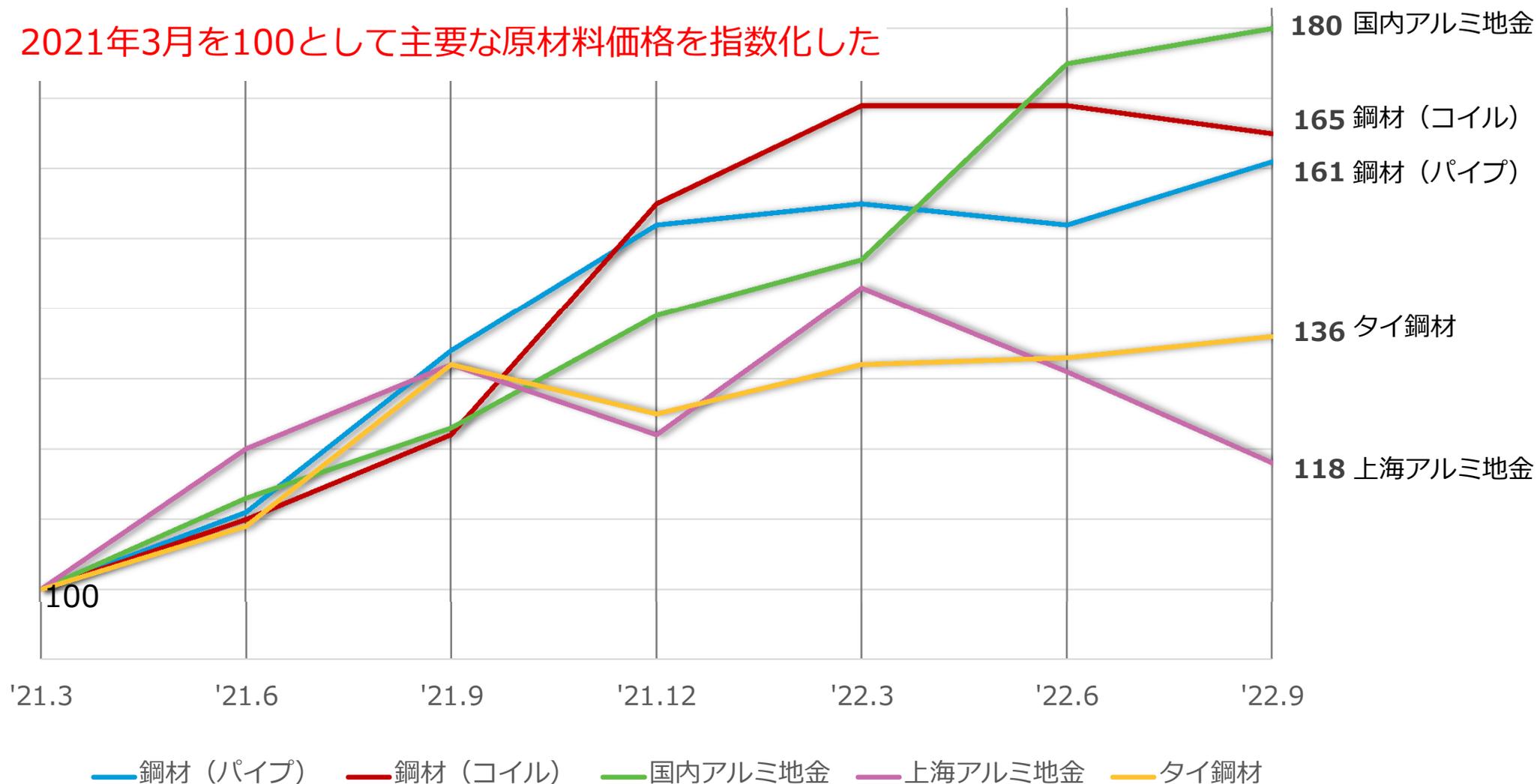


- ✓ 建設機材セグメントを中心とした売上高の増加が増益に大きく寄与
- ✓ 急速な円安の進行により、販売価格の値上げは利益増に結びついていないが、在庫評価の増加が利益率の低下圧力を緩和
- ✓ 営業外収益に為替予約によるヘッジ効果と外貨建資産の評価益を為替差益として計上

# 主要な原材料価格の実勢推移

- ✓ 使用量の多い鋼材は価格の上昇基調が継続。2021年7月頃からの上昇が急激で、2022年3月以降も上昇基調が継続し高値で推移
- ✓ 販売価格への転嫁は進めているものの、主要な原材料価格の上昇に対しては後追い状況が継続しており、値上げ効果が実現するまでには相応の時間を要する

2021年3月を100として主要な原材料価格を指数化した



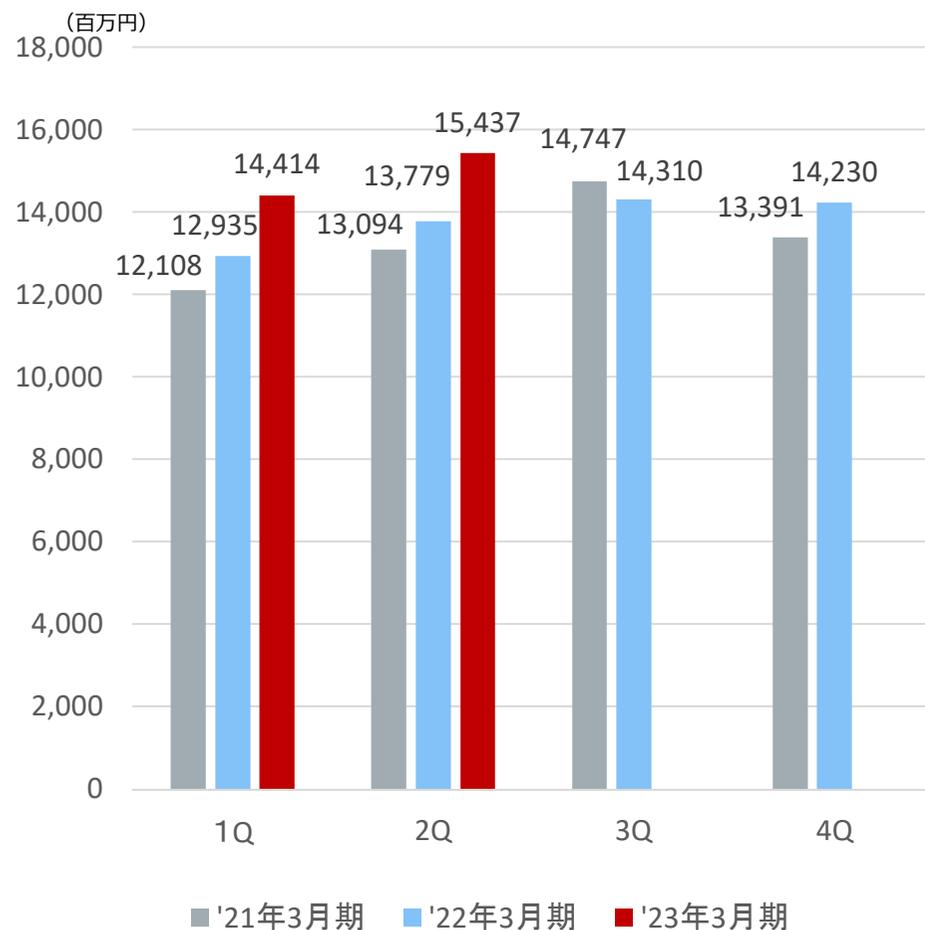
# ドル／円相場の推移



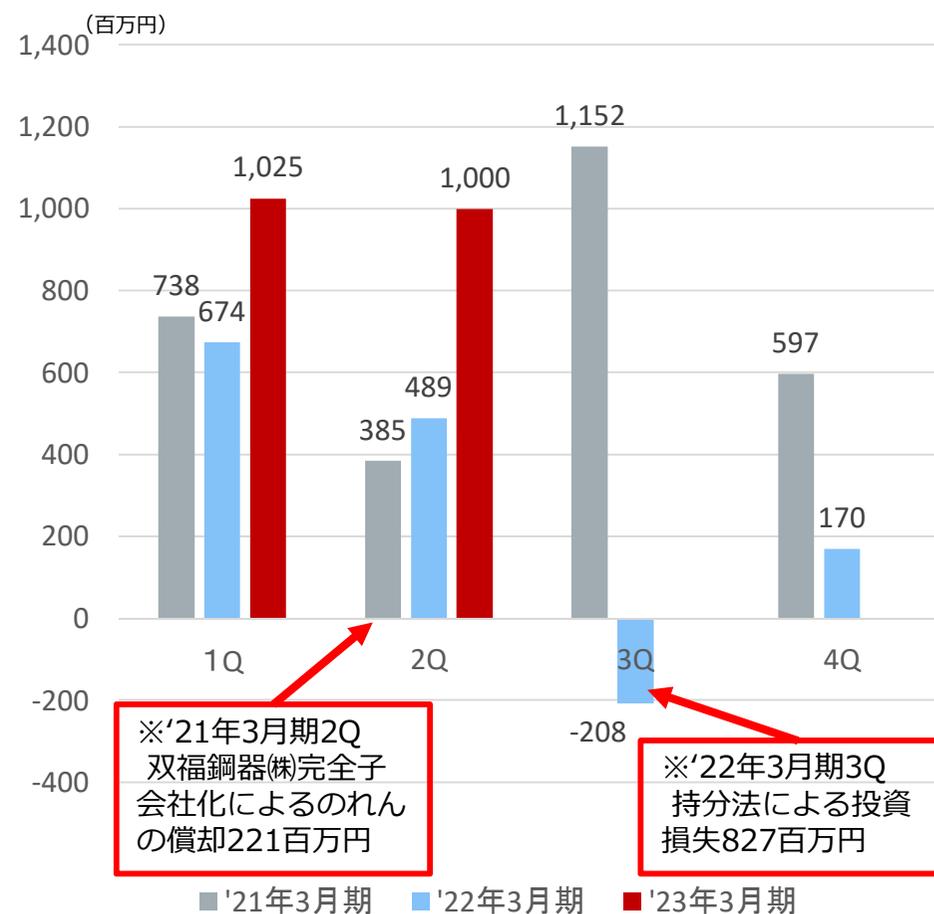
	期初業績予想における主な“前提”	第2四半期までの状況
建設機材関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 材料価格上昇への対応として前期に実施した値上げの効果が段階的に実現する想定</li> <li>✓ 仮設機材の販売は値上げによる販売数量の減少を想定</li> <li>✓ 物流関連は倉庫関連の受注が堅調で、加えて前期に子会社化したウエキンの売上高が通年で寄与することから前期比増収を想定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 材料価格の上昇に対応して、値上げを継続的に実施</li> <li>✓ 「アルバトロス」採用ユーザーの増加もあり、好調な販売が継続</li> <li>✓ リニューアル工事の増加により「SKパネル」の販売が好調</li> <li>✓ 物流関連は売上高が堅調に推移したが、鋼材価格の上昇により利益は計画を下回る</li> </ul>
レンタル関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ コロナ禍からの回復による競争環境の改善を想定し、利益率改善と機材稼働率上昇を見込む</li> <li>✓ レンタル資産の減価償却費は、新型足場中心の選別投資によって、前期並みの想定</li> <li>✓ 新型足場は販売との連携のため引き続き投資を継続する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中高層レンタルにおいて「アルバトロス」を中心に仮設機材の稼働率は前年同期を上回って推移</li> <li>✓ 価格競争は依然として激しく利益率の改善は限定的</li> <li>✓ レンタル資産への投資はほぼ計画通りであり、減価償却費も想定範囲内で推移</li> <li>✓ 「アルバトロス」は高稼働率を維持し、レンタル投資を継続</li> </ul>

	期初業績予想における主な“前提”	第2四半期までの状況
住宅機器関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 材料価格上昇や円安への対応として前期に実施した値上げに続けて、更なる値上げを想定</li> <li>✓ フィットネス機器は、新製品発売によって販売数量と利益率をてこ入れする</li> <li>✓ アルミ製はしご・脚立などの販売は企業向け需要の回復によって、機工・金物ルートへの販売強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 想定した値上げは実行済であるが、急速な円安の進行は想定以上で、急激なコスト上昇圧力下にある</li> <li>✓ フィットネス機器は、中国ロックダウンの影響を受け新製品開発が遅れ、順次発売するも販売数量と利益率の改善は遅れている</li> <li>✓ アルミ製品は量販ルート、機工・金物ルートともに値上げの影響をこなして売上高は堅調に推移</li> </ul>
電子機器関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 前期に子会社化した東電子工業の売上高が通年で寄与する</li> <li>✓ 加えて、旺盛なプリント配線板需要に対応する増産投資を実行する</li> <li>✓ 主力の特定小電力は堅調で、加えて無線モジュールの新製品はICT化が進む建設機械向けに販売増の期待</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 連結子会社化した東電子工業は、部品の需給ひっ迫を背景にした電子機器メーカーの先行調達ニーズを取り込み、期初から好調な受注</li> <li>✓ 但し、生産能力を越す受注量をアウトソースで対応しているため利益への寄与は限定的</li> <li>✓ 無線機器は、コロナ禍から回復した海外市場向けが好調で、国内の防災無線受注が下期にズレたギャップをカバー</li> </ul>

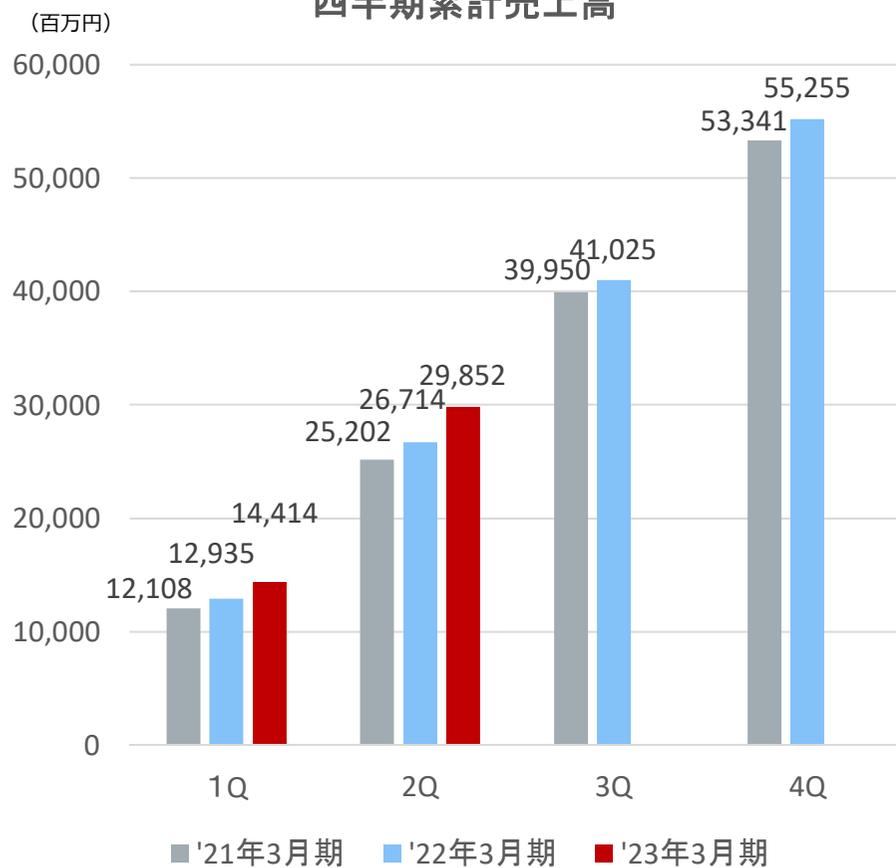
## 四半期毎売上高



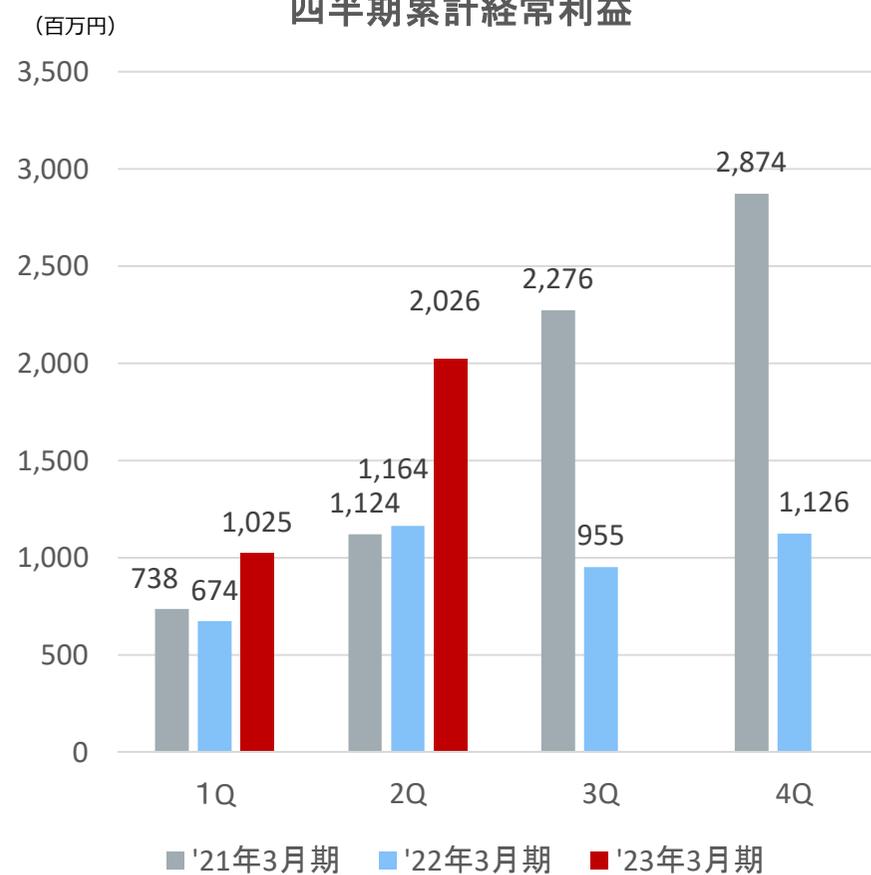
## 四半期毎経常利益



### 四半期累計売上高

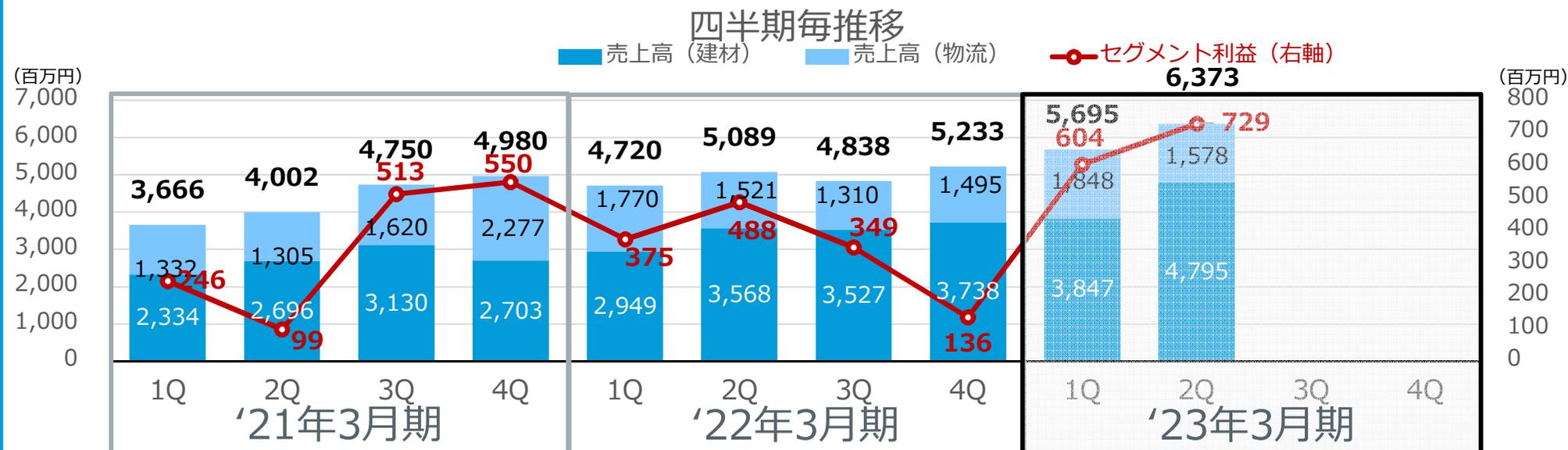


### 四半期累計経常利益

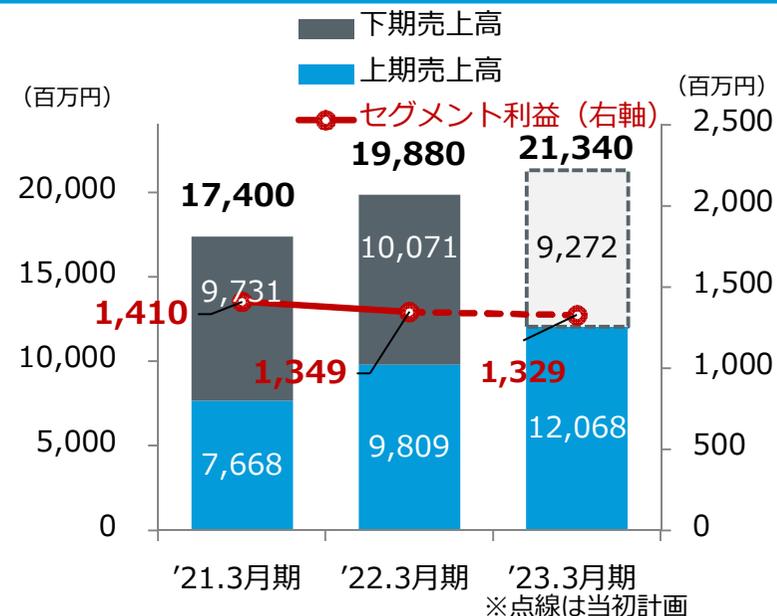


# 2023年3月期第2四半期 建設機材セグメント

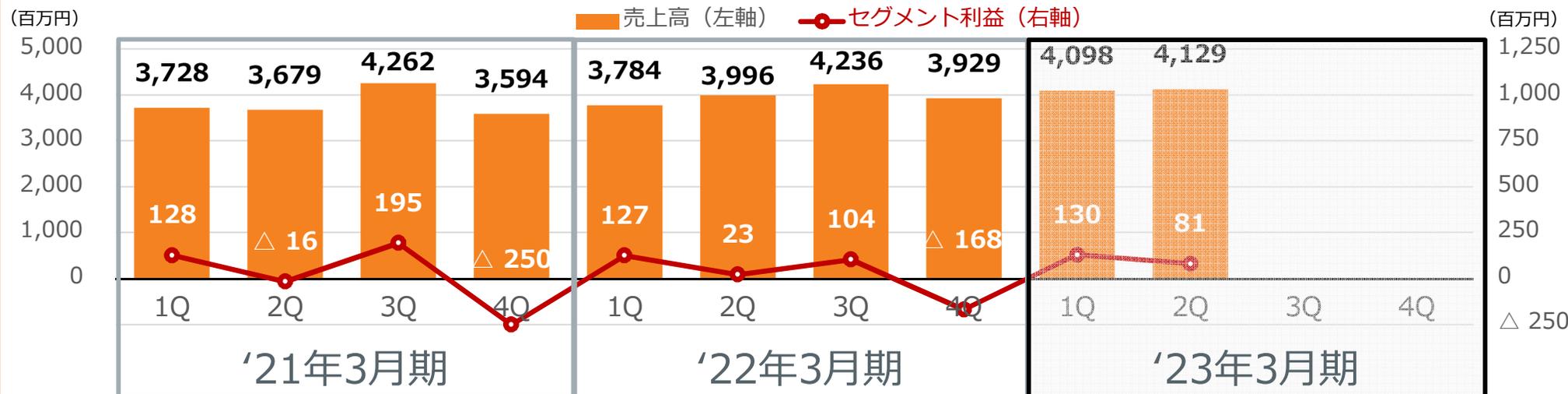
建設機材関連



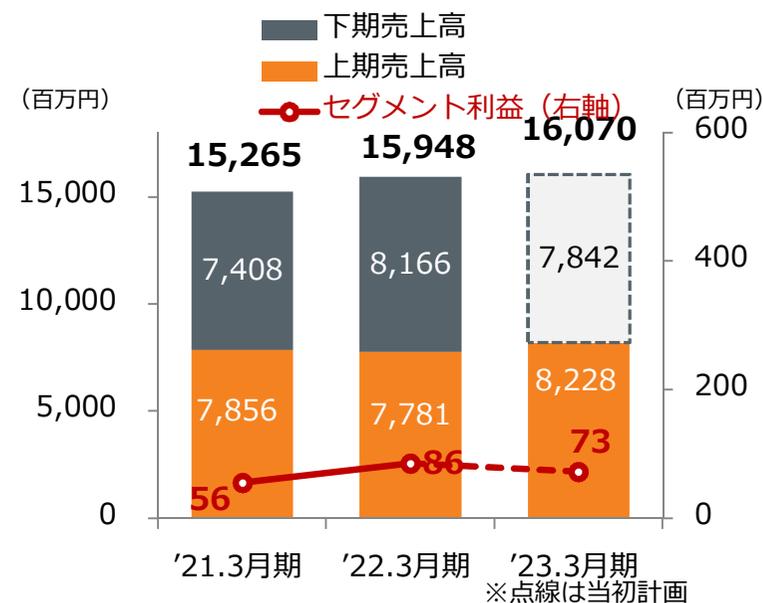
- 新型足場「アルバトロス」は大手建設会社での採用によって市場シェア拡大が進み、前年同期比79%増  
(年間販売計画60億円に対して2Q販売実績で44億円)
- SKパネルもリニューアル工事の増加により需要増
- 物流関連は前期に実施したM&Aによって、ウエキンの売上高が期初から寄与
- 鋼材やアルミなどの原材料価格が高値で推移するなか、販売価格の値上げ効果は後追いとなっているが、売上高増加による増収効果で増益確保



四半期毎推移



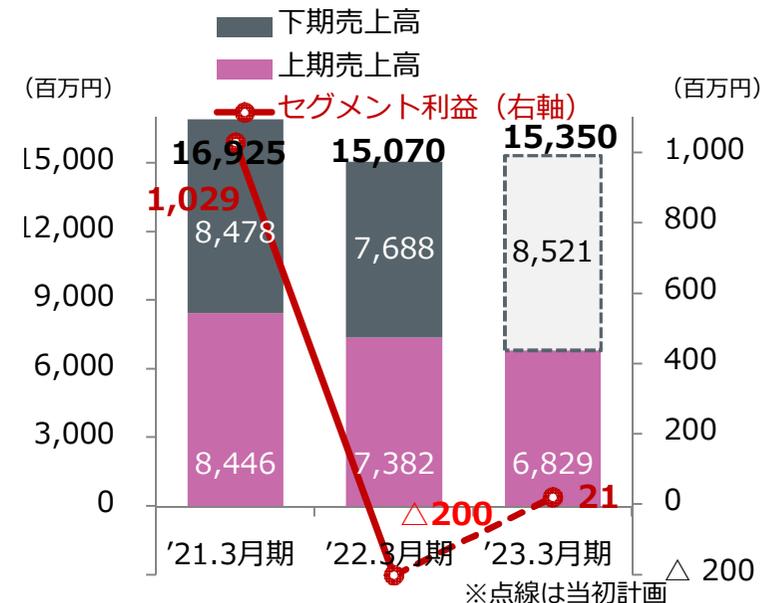
- 中高層向けレンタルの機材稼働率は期初から順調に上昇。特に「アルバトロス」は高稼働率維持
- 低層向けレンタルは、施工人員の安定と非住宅物件への受注シフトが進み業績堅調
- イベント向けは、コロナ禍でのイベント開催の回復が徐々に進み、スタジアムコンサートなどでの受注が寄与して売上高は前年同期比増加
- レンタル資産投資の減価償却負担は前年同期並み



四半期毎推移



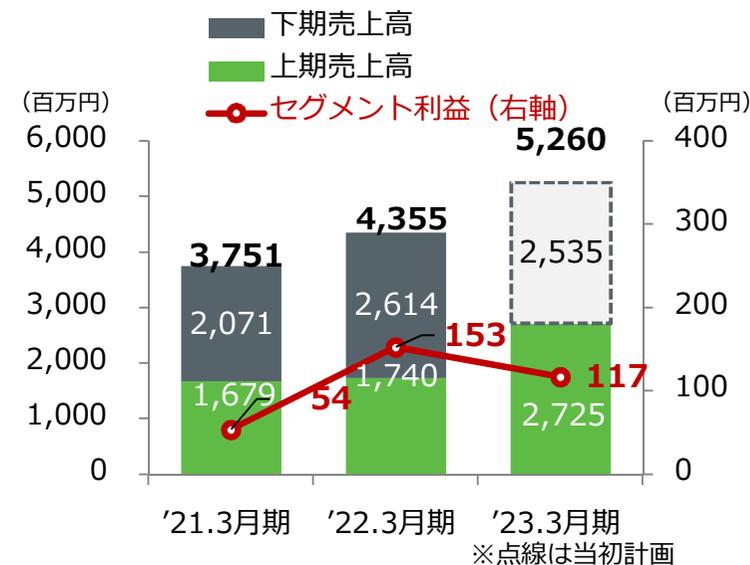
- アルミ製はしご・脚立などの販売は、販売価格値上げの影響を受けながらも、量販店向けルートではプロ向けの製品が、金物卸店向けルートでは子会社（シップや昭和ブリッジ販売）の高所作業台やアルミブリッジなどが好調
- フィットネス機器は「巣ごもり需要」の反動やコスト上昇に対して実施した値上げにより低調に推移
- 急速な円安進展による海外仕入コスト上昇に販売価格転嫁が追い付かず利益率低下



四半期毎推移



- 前期に子会社化した東電子工業の売上高が期初から寄与。半導体製造装置電源やアミューズメント機器向けのプリント配線板受注が旺盛で売上拡大が継続
- 無線機の海外向け販売は、他社の供給停滞による機会を捉えて拡販が進み、前年同期比70.3%増
- 国内向け販売では、特定小電力無線で新製品の浸透が進み堅調に推移
- 防災無線は上期予定案件が下期にずれただため上期業績には寄与せず
- 半導体業界における需給ひっ迫は、調達ルートが多様化によって、部品調達面で大きな影響は生じていない



# 2023年3月期通期業績予想 について

## 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しについては、金融引き締めに伴う米国経済の急減速、ゼロコロナ政策継続による中国経済の下振れ、ウクライナ情勢の深刻化、冬場の電力不足による経済活動の制限、新型コロナウイルス感染拡大時の政策対応の不確実性など、景気の下振れリスクは大きいとされます。

このような状況のなか、当社グループにおいては原材料価格の上昇や円安による海外からの仕入コスト上昇などの懸念は依然として継続しております。また、当第2四半期連結累計期間において経常利益面での改善要因となった外貨建資産の評価益などが、今後の為替相場の動向に影響を受けるものと考えております。

このような状況を踏まえ、現時点において2023年3月期通期の連結業績予想は2022年5月2日に公表しました予想数値を据え置くことといたしました。

**なお、今後、市場の動向など各種情報の収集に努め、業績予想に変更が生じた場合には速やかに公表いたします。**

(2023年3月期 第2四半期決算短信 から抜粋)

# 2023年3月期 連結業績予想

(単位：百万円)

		2022年3月期 実績			2023年3月期 予想		
		上期実績 (前年同期比 増減率)	下期実績 (前年同期比 増減率)	通期実績 (前期比 増減率)	上期実績 (前年同期比 増減率)	通期 (前期比 増減率)	上期進捗率
売上高		26,714 (+6.0%)	28,541 (+1.4%)	55,255 (3.6%)	29,852 (+11.7%)	58,020 (+5.0%)	51.5%
営業利益		922 (△5.5%)	196 (△87.5%)	1,119 (△56.2%)	1,002 (+8.7%)	1,540 (+37.6%)	65.1%
経常利益		1,164 (+3.6%)	△38 (-)	1,126 (△60.8%)	2,026 (+74.1%)	1,660 (+47.4%)	122.0%
親会社に帰属する 当期純利益		747 (+24.1%)	△296 (-)	451 (△72.9%)	1,222 (+63.4%)	1,010 (+123.8%)	121.0%
建設機材関連	売上高	9,809	10,071	19,880	12,068	21,340	56.6%
	セグメント利益	863	485	1,349	1,334	1,329	100.4%
レンタル関連	売上高	7,781	8,166	15,948	8,228	16,070	51.2%
	セグメント利益	150	△64	86	212	73	290.4%
住宅機器関連	売上高	7,382	7,688	15,070	6,829	15,350	44.5%
	セグメント利益	△25	△175	△200	△156	21	-
電子機器関連	売上高	1,740	2,614	4,355	2,725	5,260	51.8%
	セグメント利益	47	106	153	156	117	133.3%
調整		-	-	-	-	-	
		127	△390	△263	479	120	
全社合計		26,714 1,164	28,541 △38	55,255 1,126	29,852 2,026	58,020 1,660	51.5% 122.0%

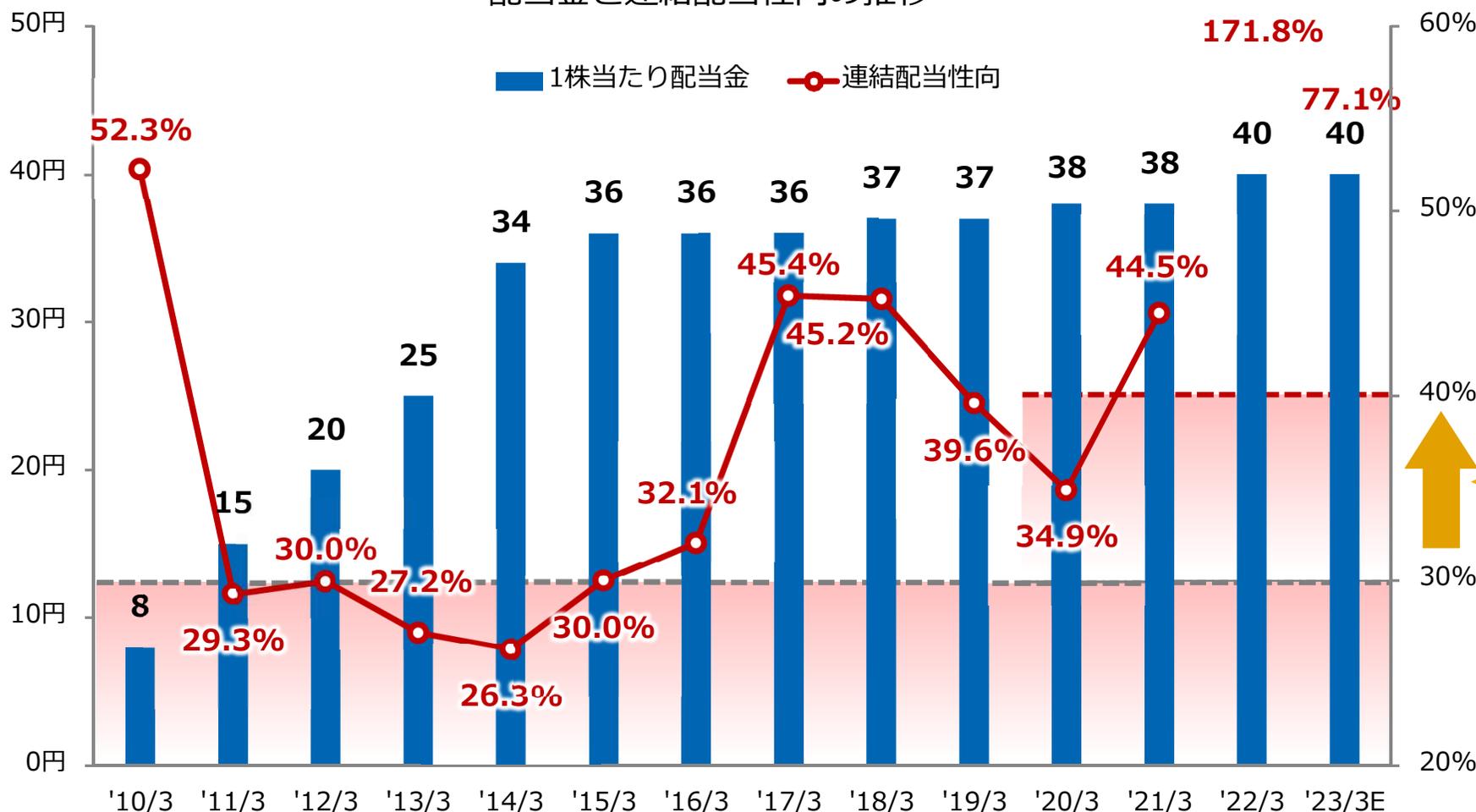
	第2四半期までの状況	今後の見通し
建設 機材 関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 材料価格の上昇に対応して、値上げを継続的に実施</li> <li>✓ 「アルバトロス」採用ユーザーの増加もあり、好調な販売が継続</li> <li>✓ リニューアル工事の増加により「SKパネル」の販売が好調</li> <li>✓ 物流関連は売上高が堅調に推移したが、鋼材価格の上昇により利益は計画を下回る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 仕入コストは原材料価格の高値推移から、上昇に転じる見通し（主要製品の鋼材で年末から年初にかけておよそ10%~15%の上昇見通し）</li> <li>✓ 「アルバトロス」を中心とした仮設機材の販売は好調が継続</li> <li>✓ 「アルバトロス」は使用される現場が多様化しており数量効果が期待できる</li> <li>✓ 物流関連でも鋼材価格の見通しは仮設機材同様に利益の圧迫要因となる</li> </ul>
レン タル 関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中高層レンタルにおいて「アルバトロス」を中心に仮設機材の稼働率は前年同期を上回って推移</li> <li>✓ 価格競争は依然として激しく利益率の改善は限定的</li> <li>✓ レンタル資産への投資はほぼ計画通りであり、減価償却費も想定範囲内で推移</li> <li>✓ 「アルバトロス」は高稼働率を維持し、レンタル投資を継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 機材稼働率の想定に大きな乖離は生じない見通し。利益率の改善には時間を要す</li> <li>✓ レンタル資産の減価償却費は想定から大きく増加しない見込み</li> </ul>

	第2四半期までの状況	今後の見通し
住宅機器関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 想定した値上げは実行済であるが、急速な円安の進行は想定以上で、急激なコスト上昇圧力下にある</li> <li>✓ フィットネス機器は、中国ロックダウンの影響を受け新製品開発が遅れ、順次発売するも販売数量と利益率の改善は遅れている</li> <li>✓ アルミ製品は量販ルート、機工・金物ルートともに値上げの影響をこなして売上高は堅調に推移</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 足下での円安水準定着を想定すると仕入コストは約26%上昇、為替予約によるヘッジ効果をふまえても約14%上昇する</li> <li>✓ フィットネス機器は、利益率改善を優先し、更なる値上げを実施予定（売上高の減少傾向は継続見通し）</li> <li>✓ アルミ製品は競合環境から更なる値上げは困難で、売上高増加によって利益確保を図る</li> </ul>
電子機器関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 連結子会社化した東電子工業は、部品の需給ひっ迫を背景にした電子機器メーカーの先行調達ニーズを取り込み、期初から好調な受注</li> <li>✓ 但し、生産能力を越す受注量をアウトソースで対応しているため利益への寄与は限定的</li> <li>✓ 無線機器は、コロナ禍から回復した海外市場向けが好調で、国内の防災無線受注が下期にズレたギャップをカバー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 東電子工業の業績と無線機の海外向け販売の好調は継続する見込み</li> <li>✓ 無線機の国内向け販売では、販売価格の値上げ効果実現が期待できる</li> <li>✓ 下期にズレた防災無線案件は下期から納入がはじまり、一部が下期業績に寄与</li> </ul>

# 株主還元

「安定的な配当を基本方針とし、連結配当性向40%を目標とする」従来からの方針を堅持し、2022年3月期の剰余金の配当ならびに2023年3月期の同予想は配当性向に関わらず安定配当を基軸として実施します

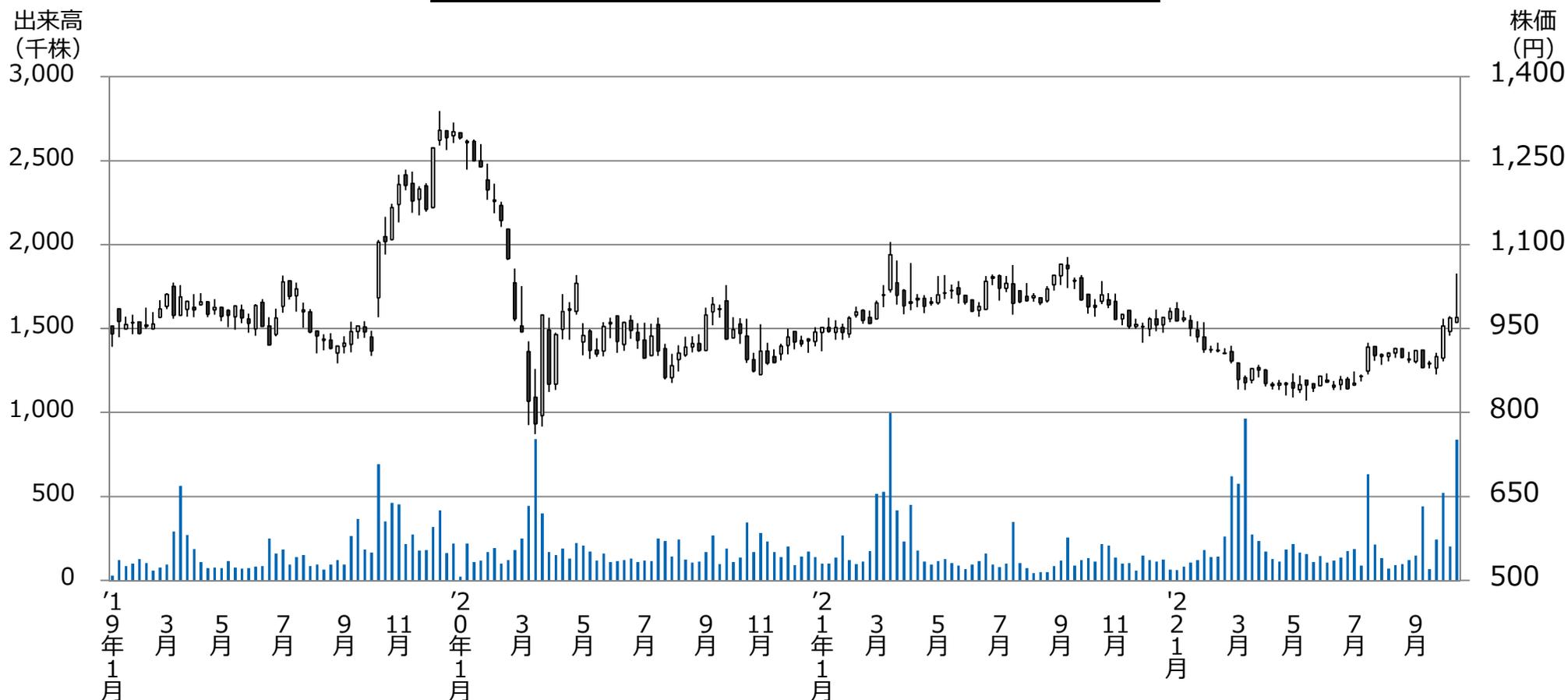
配当金と連結配当性向の推移



※ 2015/3には東証1部指定記念配当2円を含む

2020年3月期より  
連結配当性向の  
目標を引き上げ

終値 **970円** (2022年10月21日現在)



配当利回り (実績)

**4.1%**

純資産倍率 (PBR)

**0.66倍**

株価収益率 (PER)

**18.7倍**

3月20日現在の株主様に対し、  
下記金額の商品券をお送りしています。

	3年未満 保有	3年以上 継続保有
<b>500株以上</b> 所有の株主様	1,000円分	2,000円分
<b>1,000株以上</b> 所有の株主様	2,000円分	3,000円分
<b>5,000株以上</b> 所有の株主様	4,000円分	5,000円分
<b>10,000株以上</b> 所有の株主様	6,000円分	8,000円分

- ・3年以上継続保有とは、半期ベースで連続7回以上株主名簿に記載された場合をいいます。
- ・上記の商品券は「VJAギフトカード」となります。

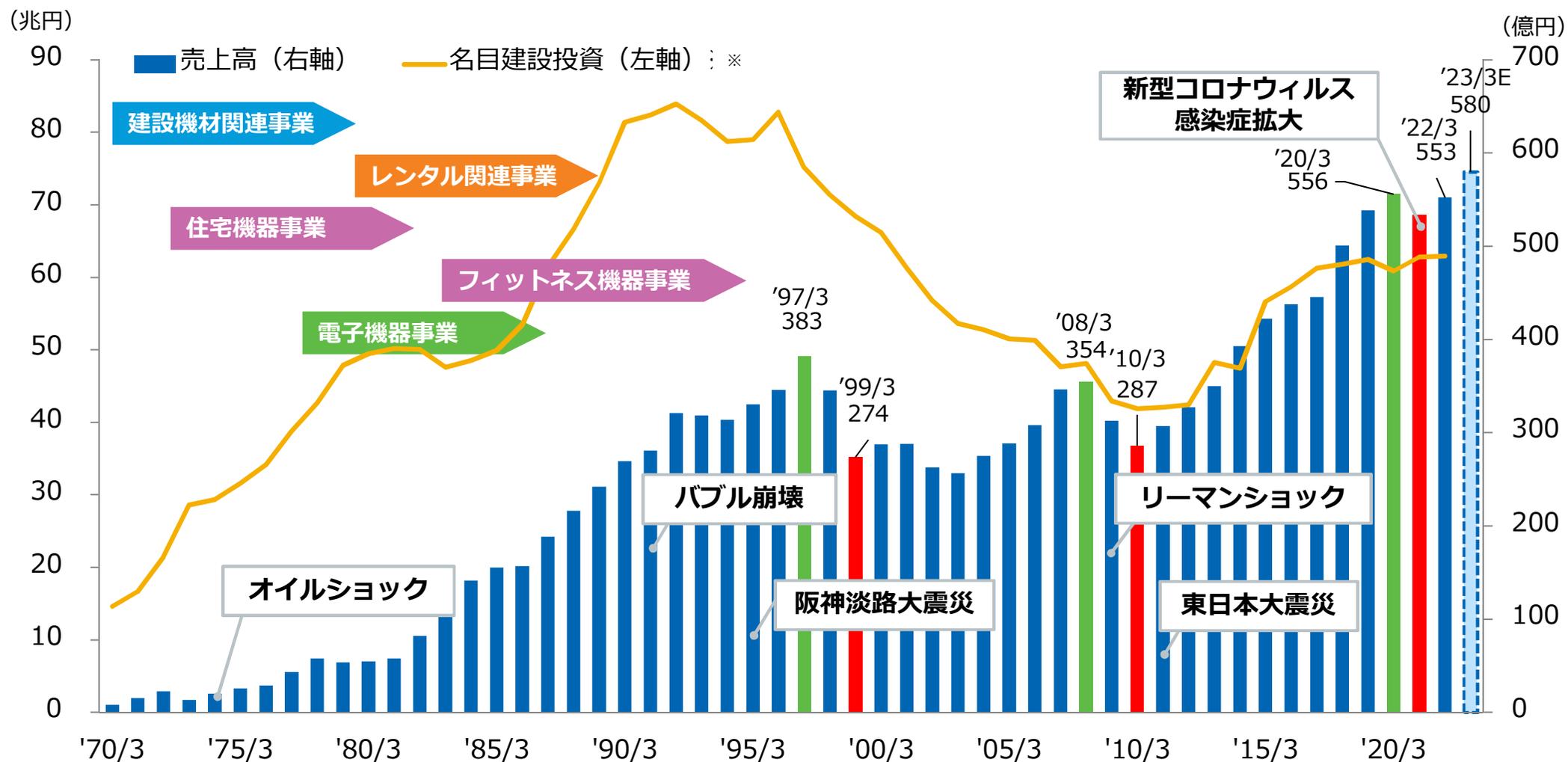
# 会社概要

社 名	アルインコ株式会社
上 場 市 場	東証プライム（2022年4月4日移行）
創 業	1938年
設 立 年 月 日	1970年7月4日
従 業 員 数	連結 1,465名、単体 774名（2022年9月20日現在）
資 本 金	63億61百万円
発 行 済 み 株 式 数	21,039,326株
連 結 総 資 産	631億79百万円（2022年9月20日現在）
子 会 社	19社（国内10社、中国4社、タイ3社、ベトナム1社、インドネシア1社）
連 結 会 計 期 間	3月21日～3月20日
会 計 基 準	日本基準

<b>1938年</b> (昭和13年)	大阪において「井上鉄工所」を創業、自転車部品などの製造を行う
<b>1970年</b> (昭和45年)	「井上鉄工株式会社」設立
<b>1983年</b> (昭和58年)	社名を「アルインコ株式会社」に変更
<b>1993年</b> (平成 5年)	大阪証券取引所市場第二部に上場
<b>2003年</b> (平成15年)	中華人民共和国に現地法人を設立し、アルミ製品の生産を開始
<b>2006年</b> (平成18年)	東京証券取引所市場第二部に上場
<b>2012年</b> (平成24年)	タイ王国に現地法人を設立し、仮設機材の生産・レンタル事業を開始
<b>2014年</b> (平成26年)	インドネシア共和国に現地法人を設立 東京証券取引所市場一部銘柄に指定
<b>2015年</b> (平成27年)	東京本社を設置し、大阪本社との2本社制とする 兵庫第2工場を拡張し生産能力を増強
<b>2017年</b> (平成29年)	物流関連製品メーカーの双福鋼器(株)を子会社化 (51%の株式を取得)
<b>2018年</b> (平成30年)	アルミブリッジメーカーの昭和ブリッジ販売(株)を子会社化
<b>2020年</b> (令和 2年)	双福鋼器(株)を完全子会社化
<b>2021年</b> (令和 3年)	プリント配線板メーカーの東電子工業(株)を子会社化 金型製作からプレス加工までの一貫生産を行う(株)ウエキンを子会社化
<b>2022年</b> (令和 4年)	東京証券取引所の市場再編によりプライム市場に移行

## 時代に先駆けて新たな市場を開拓し成長

設立からの売上高推移



※出典：国土交通省「令和3年度 建設投資見通し」

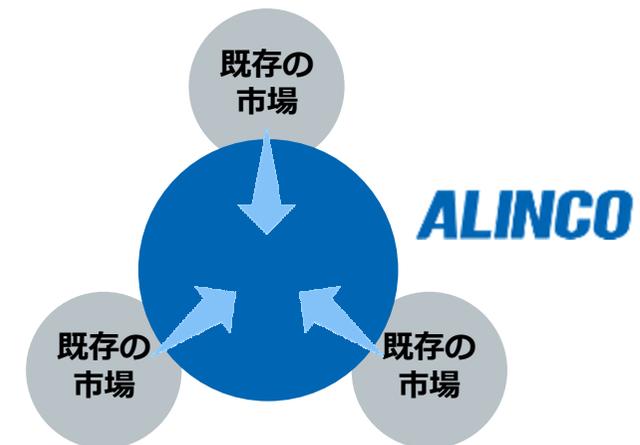
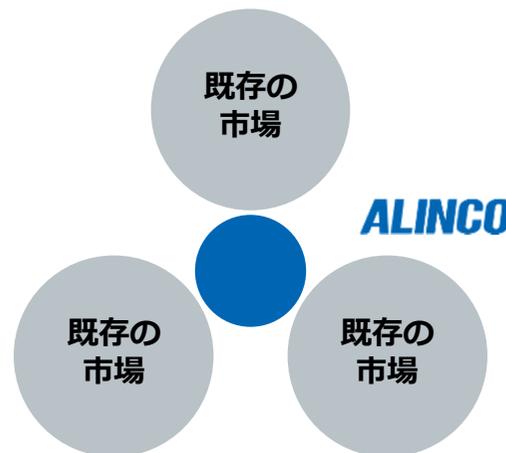
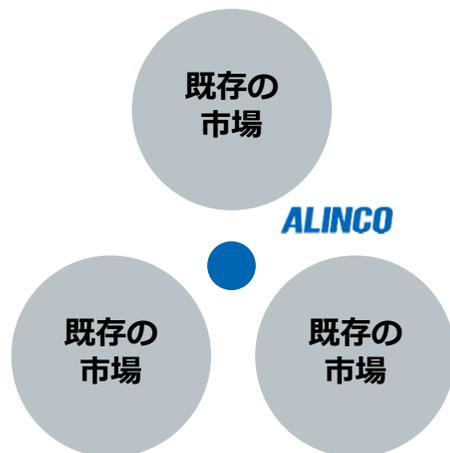
## 『ニッチマーケットでトップ企業に』

新たな市場を開拓し、各セグメントがそれぞれの事業ドメインにおいて  
トップグループの地位を確立

新たな市場を開拓

開拓した市場を育成

周辺市場の需要を取り込み  
ニッチ市場における地位を確立



## 電子機器関連

声と心を届ける、大切なインフラ



特定小電力無線 簡易業務無線 消防・救急無線



防災・行政無線



データ通信用無線装置

## 住宅機器関連

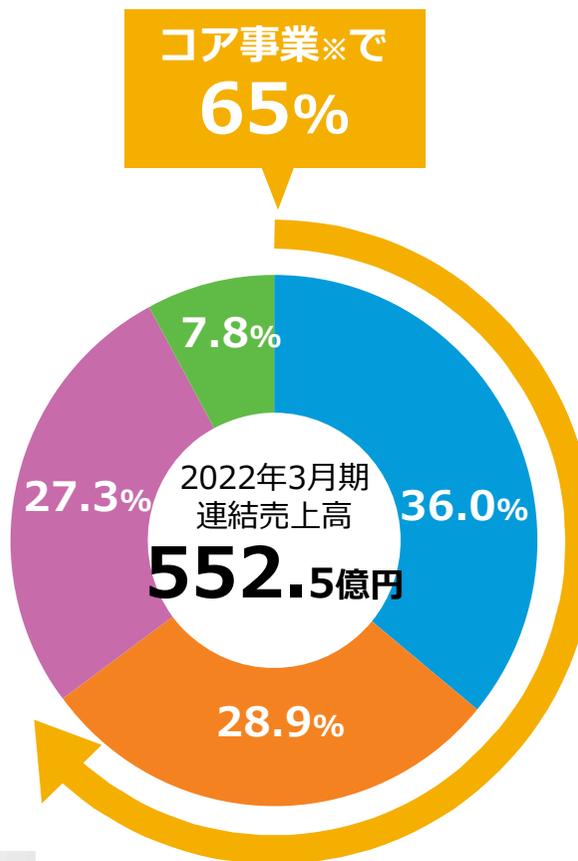
家庭に安全・快適・便利を提供



住宅機器



フィットネス機器



※コア事業は建設機材関連事業とレンタル関連事業を指す

## 建設機材関連

確かな技術力で建設現場に“安全・安心”をお届け



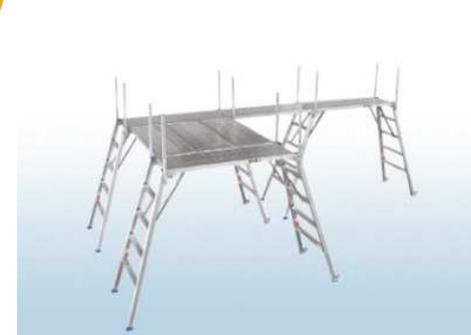
進化する足場「アルバトロス」



アルミ朝顔（落下養生機材）



セーフティSKパネル

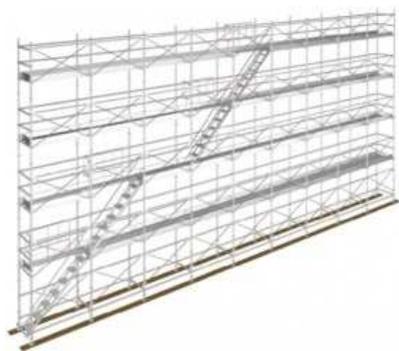


## レンタル関連

建設機材関連事業と連携

足場を中心とした仮設機材全般を販売とレンタルで供給

## 主要製品と施工事例



新型足場アルバトロス

中高層市場シェアNo.1



アルミ製軽量朝顔

市場シェアNo.1



SKパネル

市場シェアNo.1



アルミ合金製作業台



荷受けフォーム



仮設足場侵入警報システム



高さ80mのタワーマンション  
B2階からの立ち上がりの足場部分は最高高さ90m

## 枠組み足場から新型足場への置き換えが進む

### 今現場で起きていること

- 足場の安全基準が高まり、既存の足場に安全機材を追加するか、新型足場に入れ替えるか、選択を迫られている。
- 官公庁案件で義務付けられている安全機材の装着が民間案件でも徐々に浸透している。
- 各社の足場は互換性がないため、どの会社の足場を選択するのか、決断を迫られている。



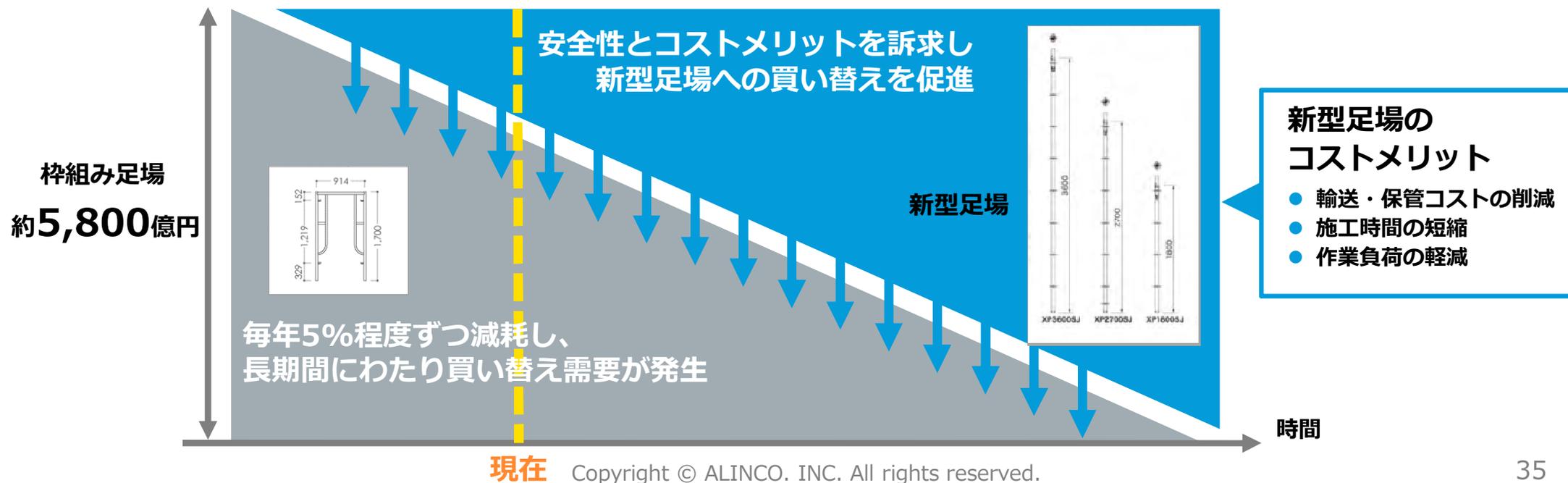
### 選択にあたって重視すること

- 安全性が高い足場であること
- 長年にわたって安定供給できること



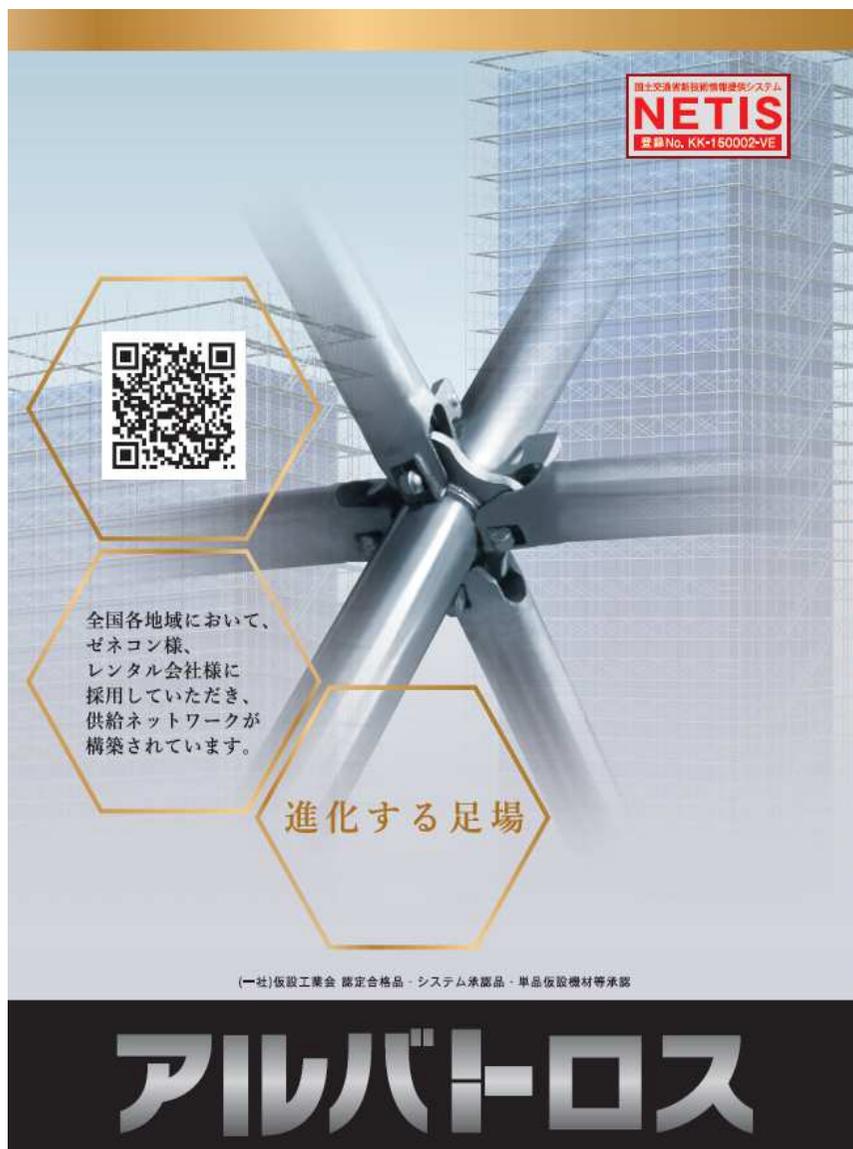
当社にとって  
追い風

### 市場に流通する枠組み足場



# 進化する足場「アルバトロス」

従来の枠組み足場に不足していた、現場で求められる安全性・拡張性・作業性  
これらのニーズを追求し開発された、進化する足場「アルバトロス」



高強度、高信頼性の緊結部

頑丈設計。経年使用にも安心

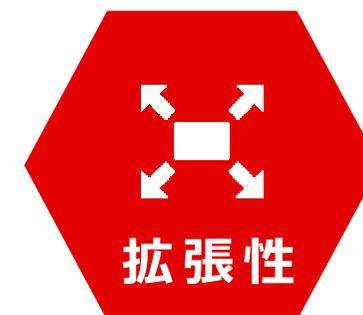
手すり先行工法が標準仕様・標準工法  
(改正安衛則適合品)

マルチパーパス

大平面の移動式ステージも簡単

3次元的組立

作業スペース下に大きな空間の確保が簡単



部材は軽量・コンパクト

枠組足場の簡単さと単管足場の自由さ

広い作業スペースの快適空間を提供

突起や隙間のないワイドなステージが簡単に

施工性大幅アップで作業コスト削減

単管・クランプを大幅に削減

工場・倉庫・店舗に於ける物流現場の人手不足による入出庫・仕分け・ピッキングの自動化、保管効率の改善・高度化、耐震化などの課題に対応

パワーラック

パワーランナー

独自製法による角パイプ構造が高い耐震性を実現

収容能力倍増を実現する移動式ラック



チャネルの特性・市場ニーズをとらえた商品を投入

## 主要製品

### アルミ製品



はしご

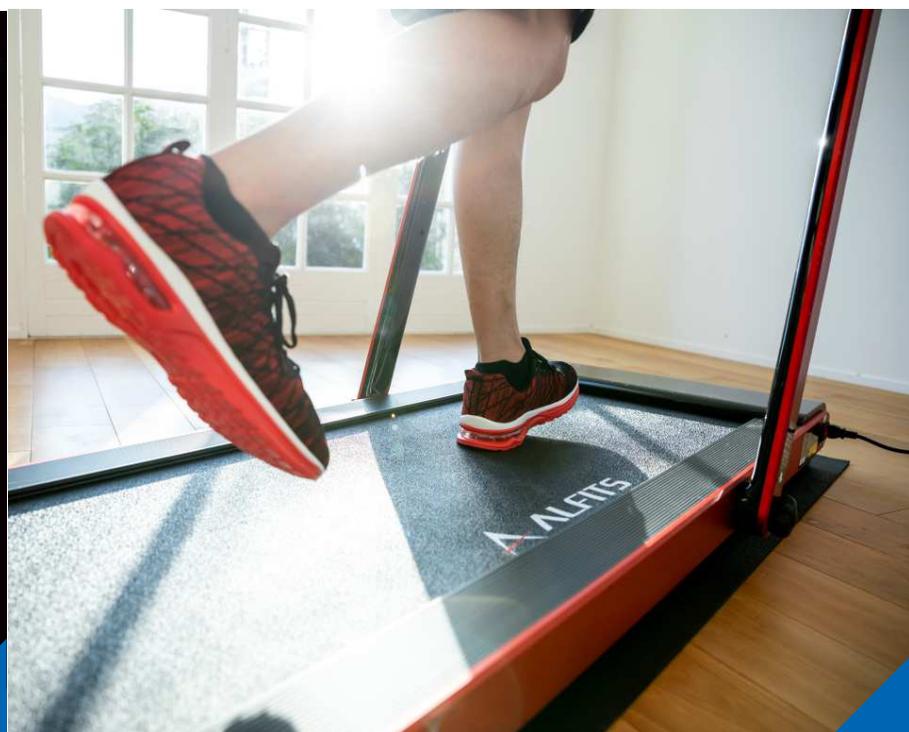


作業台



農業・運搬機材

### フィットネス機器



電動ウォーカー



フィットネスバイク



マッサージ器

## 強みである小型無線技術にフォーカスした事業展開

業務用無線



GNSSシステムブルドーザ



インナーモジュール無線

特定小電力無線



防災・行政無線、消防・救急無線



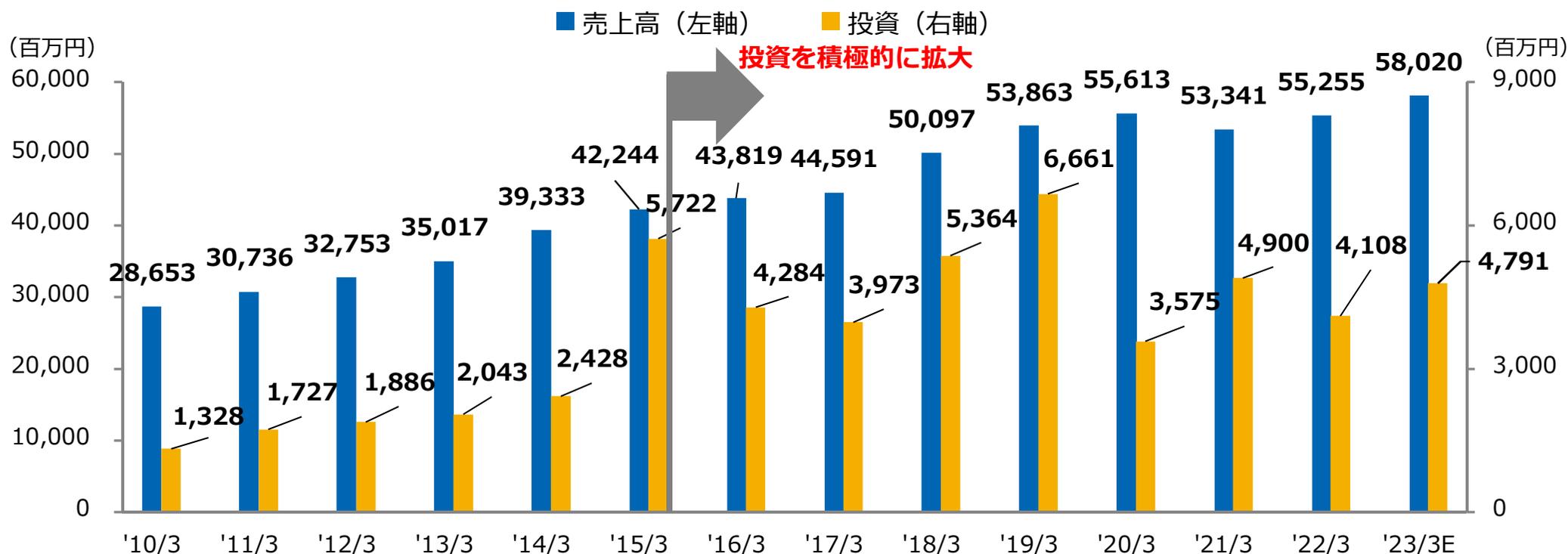
コア技術  
小型無線技術



## 今後の事業展開

- 特定小電力無線機のインカム展開
- 業務用インカム ⇒ 防災分野⇒ 業務用無線
- 業務用無線シェア拡大
- 携帯電話インフラを利用する通信機器開発
- IoTデバイス向け無線モジュール開発

## 成長に向けた積極的な投資により業績拡大を実現



### 主な投資の内容

#### 1. レンタル資産への投資

- 安全性と効率化の両立を実現する機材への投資
- 既存の枠組足場を新型足場に置き換え  
(足場市場の変革を促す新型足場のシェア拡大)

#### 2. 海外市場への展開強化

- 中国、タイ、インドネシアにおいて足場レンタル事業をスタート
- 海外日系ゼネコン関連からの受注から取り組み開始
- ローカルには日本式品質サービスを提供することで現地競合と差別化

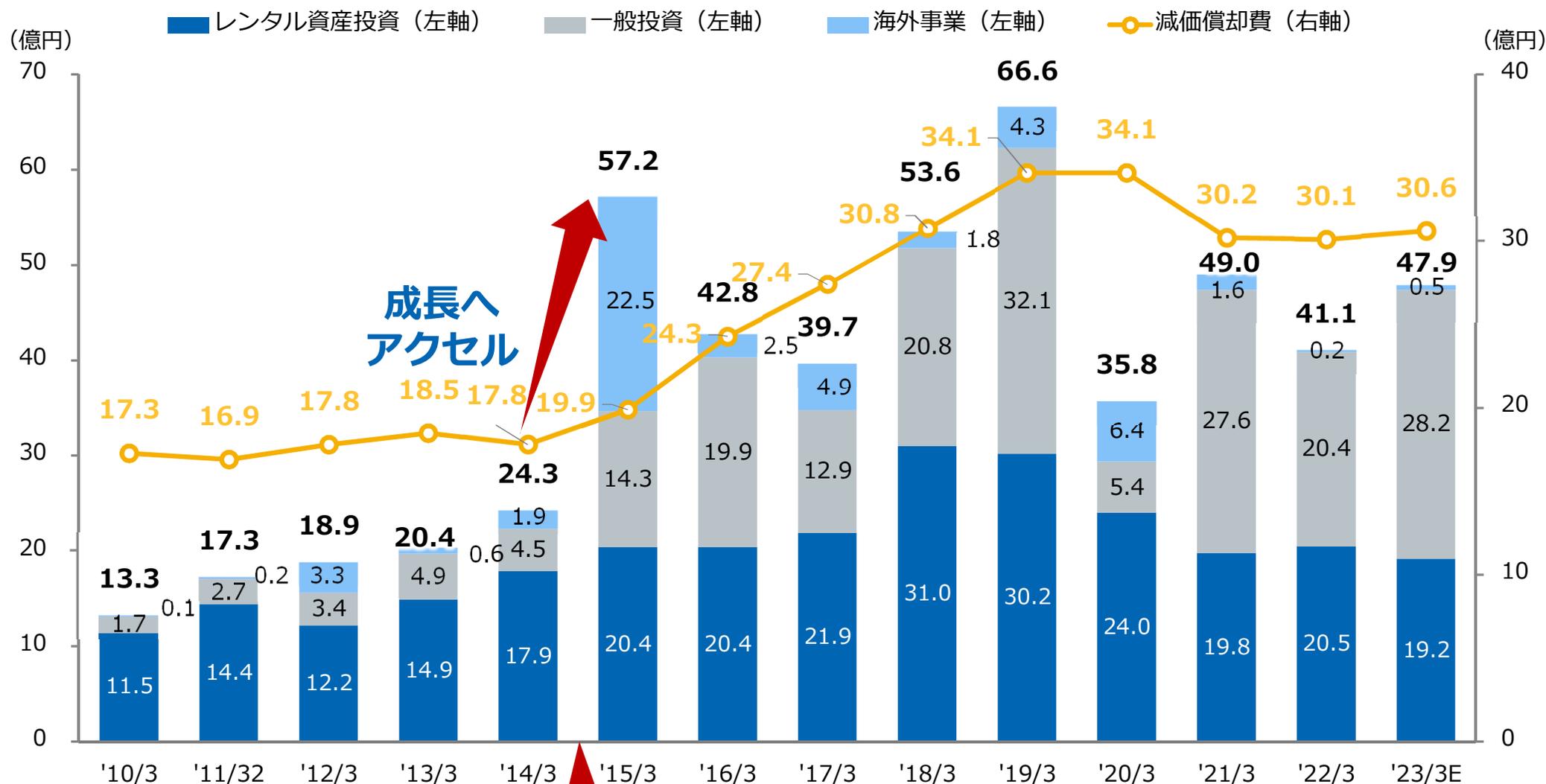
#### 3. M&Aへの積極投資

- 双福鋼器：物流自動倉庫用ラック
- 昭和ブリッジ販売：アルミブリッジ
- エス・ティ・エス：測量用レーザー機器
- シップ：据置式昇降作業台
- 東電子工業：プリント配線基板
- ウエキン：金型製作

#### 4. 生産能力の増強

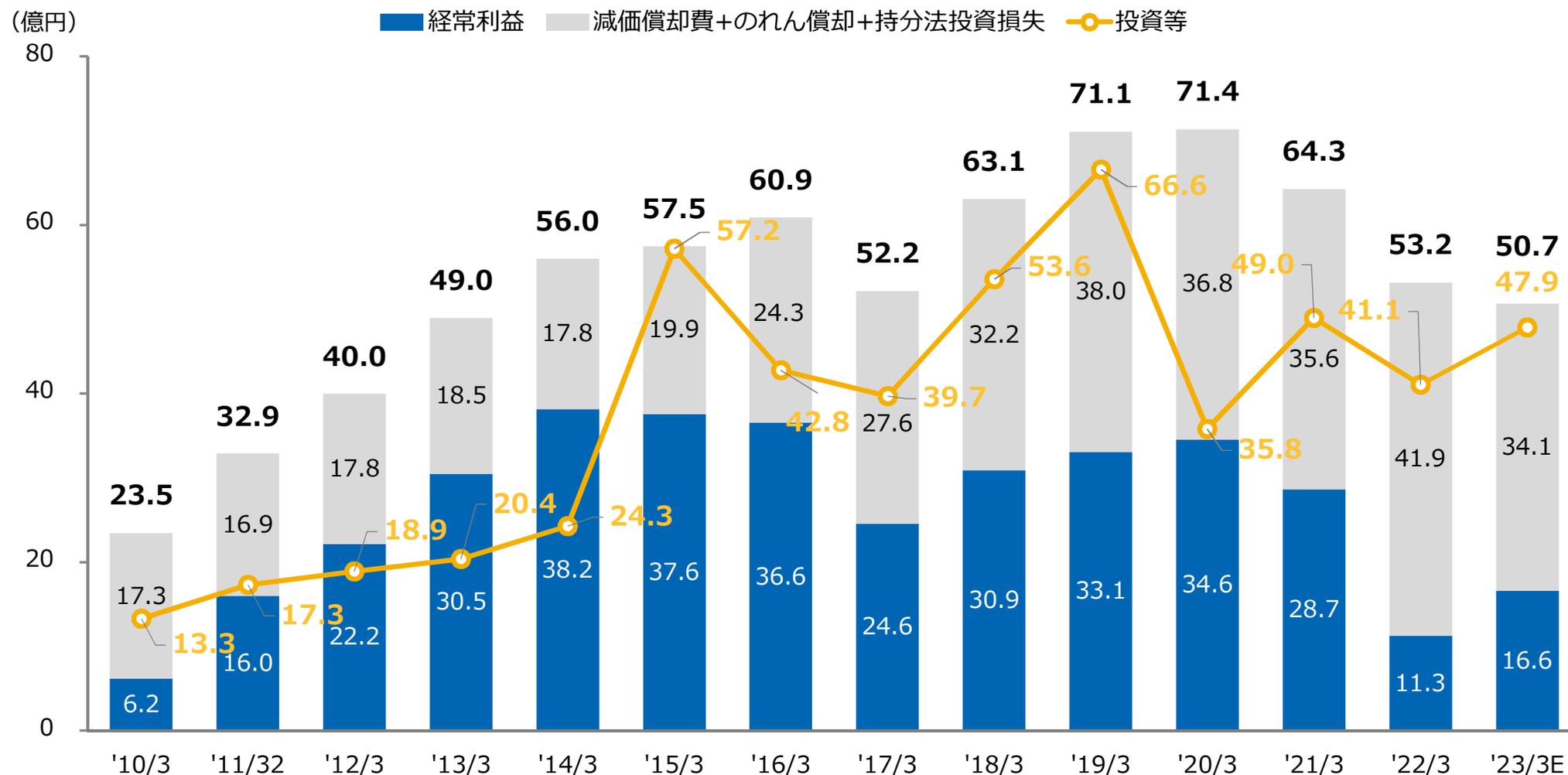
- 蘇州工場を増築
- アルインコタイランド工場建設
- 足場板製造ラインの更新と効率化
- 新型足場製造設備の導入

## 投資等の推移



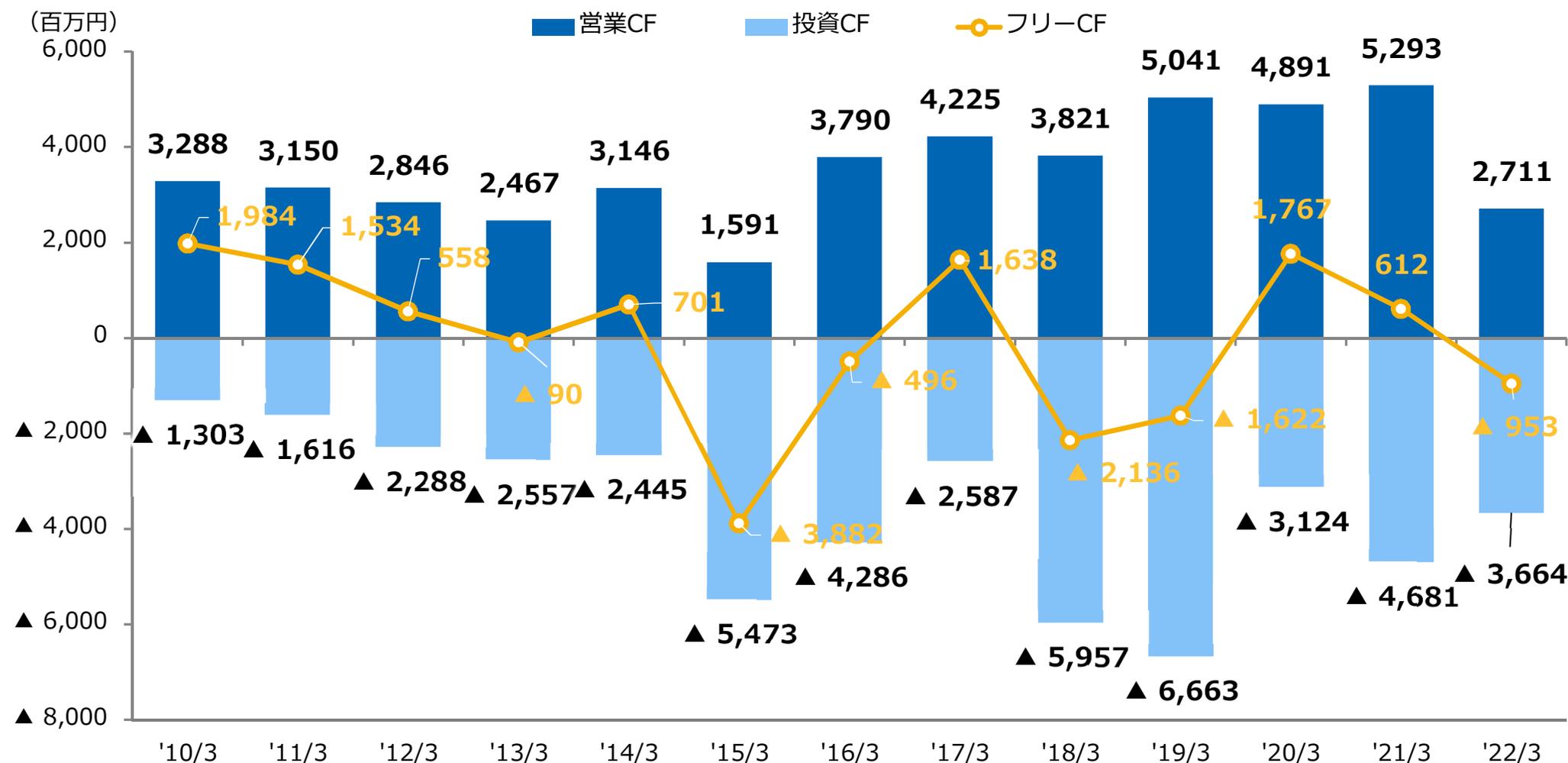
## 積極的な投資により償却負担は増加するもEBITDAは着実に増加

EBITDAと投資等の推移

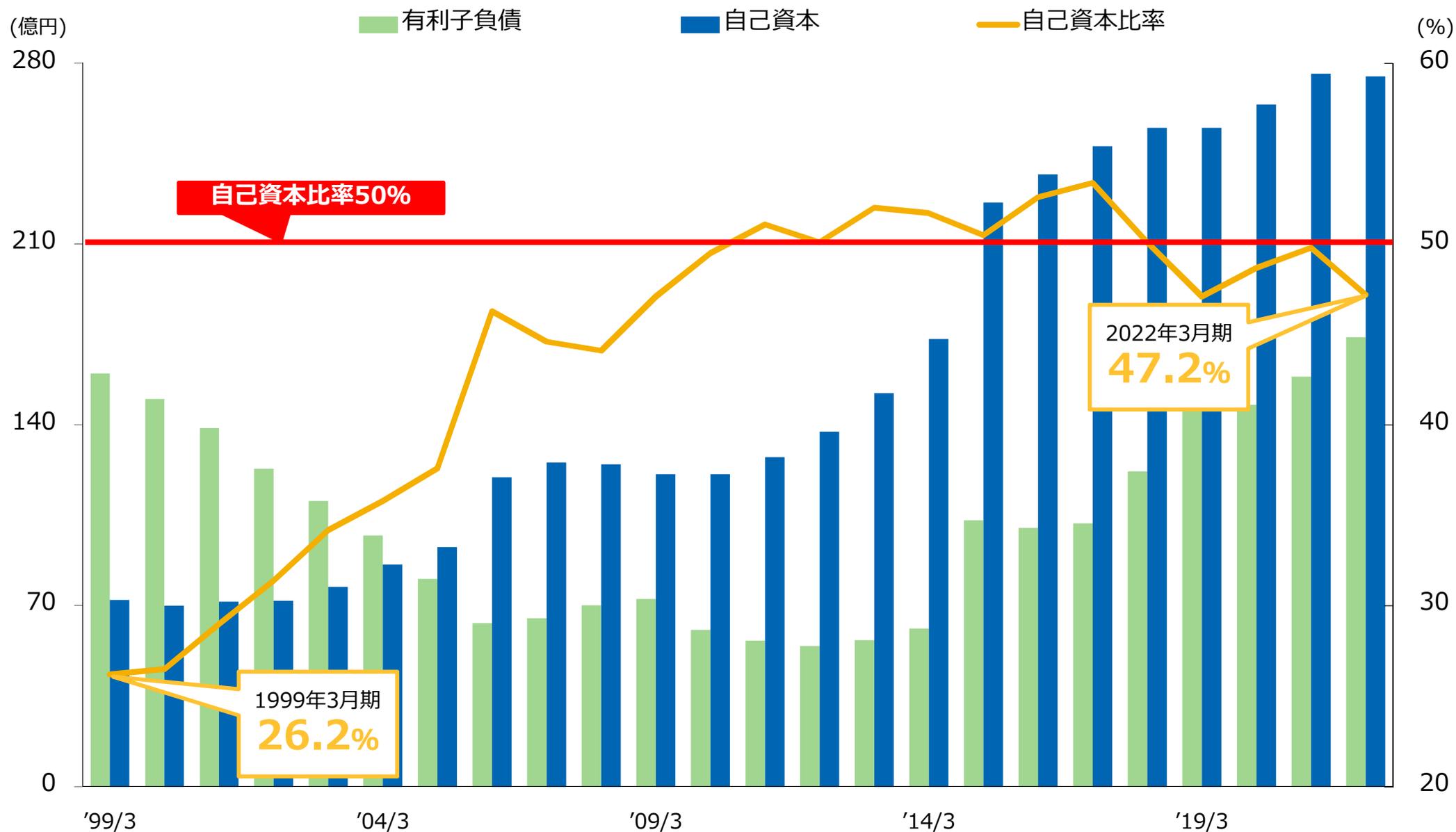


キャッシュ創出力は着実に拡大  
 増加するキャッシュを活用して将来への投資を実施

キャッシュ・フローの推移



# 強みを発揮する安定した財務基盤



本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料に記載されている将来の予測等は本資料作成時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競業状況等、多くの不確実な要因による影響を受け、今後、予告なしに変更させて頂くことがあります。

従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。

本資料利用の結果生じた、いかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

【お問い合わせ先】

アルインコ株式会社・経理部／経営企画部

大阪府中央区高麗橋4-4-9淀屋橋ダイビル

経理部 Tel:06-7636-2220・Fax:06-6208-3701

経営企画部Tel:06-7636-2240・Fax:06-6208-3703